

【事業の概要】

北朝鮮の核ミサイル開発や、中国による現状変更行動、ロシアによる挑発活動など、日本を取り巻く安全保障環境が厳しさを増す中、平和安全保障法制の策定と日米防衛協力のための指針（ガイドライン）の改定が行われた。しかし、その後も日本を取り巻く安全保障環境はさらに厳しさを増し、北朝鮮が米本土を攻撃できる能力を持ちつつあり、中国軍は兵力投射能力をさらに拡大させ、ロシア軍は北方領土の軍備の増強を図るなど、脅威の質的な変化も起こっている。

他方、アメリカ第一主義を掲げるトランプ米政権の成立をうけて、日米同盟と拡大抑止の行方に不透明なところが残っている。トランプ政権は「力による平和」を掲げ、核戦力の近代化や海軍力の増強など軍事力の強化を目指す一方、同盟国へのさらなる負担共有を求めている。また、武力攻撃に至らないグレーゾーン事態での日本の領土・主権への侵害が続いているが、グレーゾーン事態への対処では、米国の直接的支援は期待できず、日本自身がより有効に対処していかななくてはならない。

このような中、日米同盟を基軸としつつも、日本がより主体的に安全保障上の役割を果たすため、客観的ニーズに基づいた安全保障政策の検証（ボトムアップレビュー）が求められている。

以上のような問題意識の下、本事業は、日本の安全保障環境の客観的分析と脅威評価・取り組むべき課題の提示等を行う「ボトムアップレビュー」研究会、日本の安全保障を考える上で緊要な地域であるロシアおよび朝鮮半島の情勢分析と日本としての対応策の導出を目指す「ポスト・プーチンのロシアの展望」研究会および『不確実性の時代』の朝鮮半島と日本の外交・安全保障研究会の3研究会を設け、これらを相互に連携させながら運用することにより、日本の安全保障政策の有効性の向上に資する、実態に即したインプリケーションの獲得と政策提言の作成を目指す。

公開合同シンポジウム「安全保障政策のボトムアップレビュー」の実施

日時・場所：2018年2月1日、於：東海大学校友会館

テーマ：「ロシアの東アジア関与：北朝鮮問題を中心に」

「北朝鮮の核・ミサイル開発とロシア—北朝鮮の弾道ミサイル用エンジンはどこから来たか—」

「エネルギー安全保障の観点から見た日露関係：現状と課題」

「北朝鮮の国政政治」

「北朝鮮経済の現状と展望」

「北朝鮮核態勢と弾道ミサイル—2017年の成果—」

「国家安全保障戦略（2013年）の評価」

「防衛計画の大綱と統合機動防衛力：今後の課題」